

販売・回収を一体事業化

摂津容器と提携

PE内装袋と再生ドラム缶

物流容器用内装袋の製造販売会社レスコン・ジャパン(横浜市鶴見区、北窓秀夫社長)はこのほど、再生ドラム缶メーカーの摂津容器(大阪府摂津市、福田勝社長)と、ポリエチレン(PE)製内装袋とドラム缶の一体販売に関して業務提携を結んだ。レスコン・ジャパンの耐有機溶剤・静電気防止機能を持つPE製内装袋と摂津容器の200リットル再生ドラム缶をセットとしてワンストップで提供する。ユーザーにとって別途に手当てする手間が省け、また回収も同時に行うためコストダウンも期待できる。塗料、インキなど既存ユーザーのほか新規顧客開拓をめざす。

レスコン・ジャパン

コン・フィルムを共同開発、これをドラム缶や1リットル容器、パレットなど各種物流容器向けにシリーズ化、販売している。キシレン、トルエン、インプロピルアルコール(IPA)、メチルエチル

ケトン(MEK)など芳香族系有機溶剤や危険物に対応できる。またシール強度など物理強度や耐薬品性・耐クラック性、加工性に優れる。内装袋を使用することで洗浄ないし排水処理費用の削減、あるいは容器の底に残る残液を内装袋ごと取り出すことで溶剤の節約にも役立つ。

一方、摂津容器は200リットルドラム缶をメインとした洗浄・再生メーカーで、特殊な洗浄技術が評価されている。2社の業務提携内容は内装袋とドラム缶を一体でセット販売あるいは回収するもの。これまで内装袋と容器は別々に営業活動していたが今回、ワンストップで提供できる体制となったことから、ユーザーに対してコストダウンの提案営業が容易になったとする。

「内装袋と容器メーカーの業務提携は国内初のケースと思う。塗料、インキ、接着剤など既存ユーザーのほか、両社の技術・サービス・販売網を駆使して新規需要開拓に

レスコン・ジャパンは「機溶剤・静電気防止機能日本ポリエチレンと耐有」を付与したPE製のレス

弾みをつけたい(北窓秀夫社長)と拡販に期待している。